第一条 田植えの水位は一～二cm

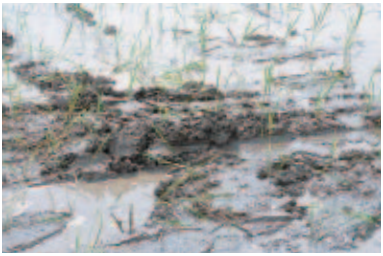
▼水がないと枕地・四隅が凸凹になる

田植えの準備で最初にするのが水位の設定だ。「マーカーの跡がよくわかるように」って田んぼの水を落としちゃってる人もいるけど、表面が剥き出しになってるところは田植え機のタイヤに泥がまとわりついて、跡がクッキリ残る。とくに枕地や四隅とか、田植え機がターンするところがこうなってると最悪だ。田んぼが無残に凸凹になって、そのままだと欠株だらけでキレイに植えられるわけがない。だからって母ちゃんにこの凸凹を均させるのはあんまりだ。

しかも泥がまとわりつくと、タイヤがスリップしやすくなる。すると植え付け間隔が思ったより狭くなったりして、行きつく先は植えムラだ。

だから田植えの水位は、田んぼの表面に一～二cm水を張った状態が基本。ある程度水があれば泥は流れてタイヤにほとんどつかないし、跡もそれほど残

角がターンで荒れた耕作くんの田んぼ。中央のほうは水があったが、四隅は高くなっていたため



そのまま植えても苗が挿さらず欠株になる

運転編

らない。母ちゃんが均す必要ももちろんないってわけよ。

▼チョロチョロかけ流して水分たっぷり状態を保つ

うちの田んぼも表面が剥き出しになってるように見えるって？　そりゃ「一～二cmの水位」だから、ちょっと高いところはそんなふうに見えるよ。

でもタイヤに泥はついてないでしょ？　じつは水の入れ方がポイントなんだよねー。

もし水をいったん落としてから、田植え直前にまた入れて一～二cmの水位にしたら、たぶんタイヤに泥がつくところがいっぱいあるよ。

水をいったん落として表面がちょっと乾いちゃうと、次に水を入れても表面をサーッと広がるだけ。下層は中途半端にしか湿らない。だからとくに下のほうの土がタイヤにまとわりついてくることになる。

水が切れた部分では車輪に泥がこんなにもまとわりつく

「一～二cmの水位」っていうのは、代かきのときと同じ水位でしょ。だから俺は代かきのときに水位を決めたら、そのまま田植えのときまで水をチョロチョロかけ流しにして、ずっと同じ水位を保っておくのよ。

だから田んぼの土は水分飽和状態。表面が剥き出しのように見えても、タイヤで押すと水が下から浮き出すくらいタプタプだから、土がタイヤにつくこともないってわけだ。

「かけ流しにすると田んぼの水が冷たくなって、苗の活着が悪くなるんじゃないか」って心配する人がいるかもしれないけど、そんなことないよ。チョロチョロ流すだけなら、冷たくなるのは水口の周りほんの少しだけ。むしろ一～二cmに浅く張った水はすぐ温まるから、かえって活着がいいくらいだ。

田植え中も終わってからも、水はずっとチョロチョロかけ流しのままだよ。終わったら排水口の水位設定を二cm上げるだけ。その後もイネの生長に合わせて排水口をちょっとずつ上げるだけだから、水管

1〜2cmの水位を保つ

ターンをしても田面があまり荒れない

水をたっぷり含んだサトちゃんの田んぼでは、ほとんど泥は付かない

風車マーカー

「表面に水があるとマーカーの跡がつかない」と心配する人もいるかもしれないが、回転式の風車マーカーを使えば土をポコポコ盛り上げながら跡をつけるので問題ない

理はたまげるほどラクだよー。水が落ちて表面が剥き出しになる心配もないから、除草剤の効きもバッチリだ。

ただしこれくらい微妙な水位の設定ができるのも、田んぼが真っ平らだからこそ。やっぱり耕耘・代かきで真っ平らな田んぼを作るのが肝心ってわけ。

第一条　手植え不要のコースどり

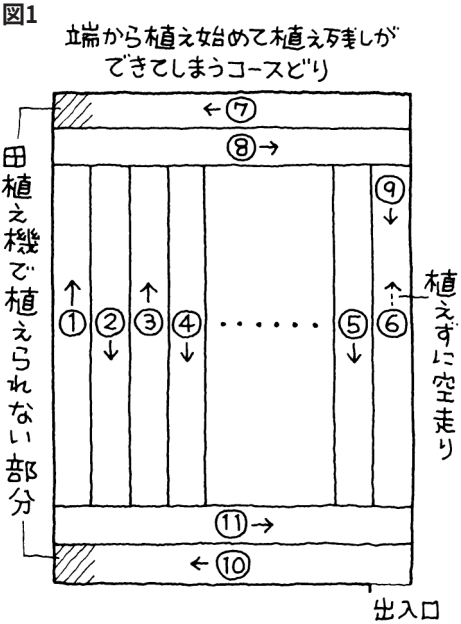
▼出口の反対側から隣接植え、グルッと周回植えでそのまま脱出

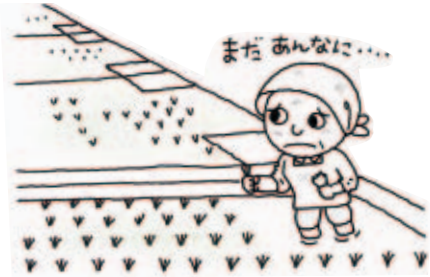
次にコースどり。植える前にどんなコースで植えて、どう田んぼから出るかのイメージがないと、耕作くんみたいに最後のほうになって幅が合わずに「さぁどうすっぺ」ってことになって、植え残しができたりする。四隅の手植えをなくして、すべて田植え機で植えきるためには、出口の反対側の隣接植えから始めて、入口近くからグルッと周回植えしながらまっすぐ入口まで戻ってくるコースどりが一番いい（左ページ図2）。

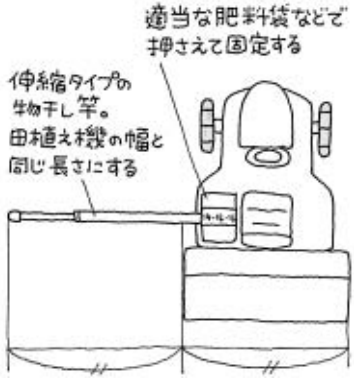
このコースどりは、じつはコンバインの収穫コースとほとんど逆（サトちゃんのコンバインのコースどりは、昨年九月号カラー口絵を参照）。収穫のときはこの跡を逆方向にまっすぐたどりながら刈っていくことになるから、条のズレが少なくて刈り取りロスも減るってわけよ。

「周回植えしようとするとうまく幅が合わないから、端から順に植えていったほうが植え残しが出ない」からって、図1みたいに植えて枕地にどうやっても植えられない部分を残す人もよくいるでしょ。「母ちゃんに手植えさせればいいや」って思ってるのかもしれないけど、それじゃ田植え機使ってる意味ないよー。その時間で母ちゃんを温泉連れてって田植えの苦労をとってもらうくらいの男にならないと。

図1

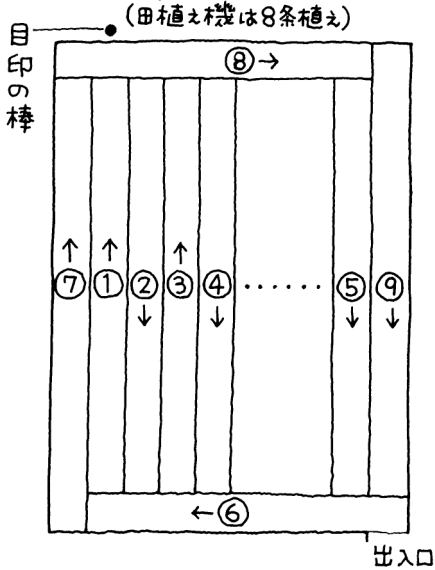






周り植えマーカーの作り方

図2 手植え不要のサトちゃんのコースどり
（田植え機は8条植え）



※①のスタート位置は、枕地の長さ÷田植え機の幅の答えが偶数だったら手前から、奇数だったら奥から。割り切れない場合は最後に幅を合わせるための列をとる

小さい田植え機の場合は、周回植えを2周分とればいい

▼田んぼと田植え機の幅を最初に測るのが条件

図2のコースどりでうまく植えるためには、田んぼと田植え機の幅をちゃんと測っておくことも条件。そうすれば何列植えれば植え残しが出ずに回れるか、田んぼのどっち側（枕地）からスタートするか、端数をどう処理すればいいのかも最初にわかるでしょ。

田んぼの向こうに立てる目印の棒も、最初はちゃんと測って立てたほうが確実。え？面倒くさい？　あとで手植えするのに比べたら、そんなのちょっとした手間じゃないのー。まぁ慣れてくればいちいち棒立てなくても、代かきの跡から幅を見極めて、目印決められるようになるよ。

それと周り植えマーカー（六五ページの写真4）は付けたほうがいい。そうすればアゼ際一列きっちり残したスタート位置が簡単に決められるでしょ。最近の田植え機にはこのマーカーが標準装備されてるのもあるけど、なくても物干し竿を使えば自分で簡単に作れるよ。

まっすぐ田植えのコツ

遠くに目標をおいて、ハンドルを動かさずに運転すれば、こんなにまっすぐ

写真ではちょっとわかりにくいが、アゼに挿した目印の棒を基準に、さらに向こうにあるできるだけ遠いものを目標にする

第三条　目標は遠くに

▼できるだけ遠くを見つめて進む

あとまっすぐ植えるための一番のコツは、運転するときに見つめる目標をなるべく遠くにすること。とくに一列目は大事だよー。田んぼの向こうに挿す棒は、あくまで目印。目標はその棒の向こうの家の窓枠、さらにその向こうにある電柱、っていうふうになるべく遠くに決める。あとはそこを見つめてハンドルを動かさずにまっすぐ進む。

アゼとか代かきの跡とか、目標を近くにして目線を手前にするほど、ちょっとのズレが気になってハンドルを動かしたくなる。動かしたが最後、田植え跡もすぐ曲がる。最初で曲がったら、そのあとの列も全部曲がっていくでしょ。

二列目以降もマーカーの跡ばっかり見るんじゃなくて、なるべく遠くを見たほうがまっすぐ植えられるよ。

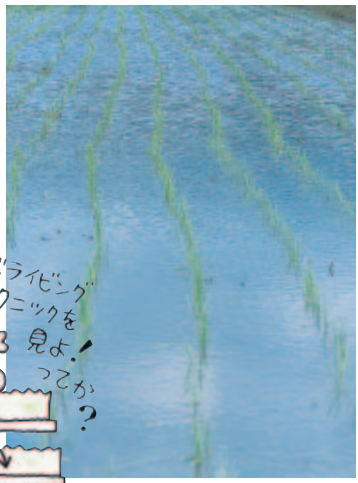
▼自分の腕は信用するな!?

田植えは耕耘・代かきよりも修正が利かないから、

田んぼの底が凸凹だとガクガク

タイヤがとられてこんなふうにガクンとズレる

ハンドルを動かすとグニャグニャ



ハンドルを動かしながら運転した跡。こんなふうに蛇行する

両手でしっかりハンドルを持つと、ついつい動かしたくなるので曲がってしまう

とくにハンドルを動かしちゃダメなんだよ。まっすぐにしてるつもりのハンドル調整で、田植え跡はテキメンに曲がるからね。自分の腕はあんまり信用しないほうがいいってこと。動かすつもりはなくても遊びがある分勝手にちょっとズレることはあるけど、せいぜいそれを直すくらいだ。

できるだけ動かさないように、運転中はハンドルを片手で持つのが基本。両手でしっかり握ってると、つい動かしたくなっちゃうんだよな。それでもまだ動かしちゃう人は、運転席で立って運転したほうがいいなー。立ってればヒジが伸びる分ハンドルを回しにくくなるからね！

もちろん後ろは振り返らない。耕耘のときもいったけど、振り返るのは暇つぶしみたいなもんでしょー。気持ちはわかるよ。ずーっと前向いて運転してるだけだと、すっごい眠くなるもんなぁ。でも車で高速道路運転するときに後ろなんか見る？　そんなわき見運転する人の車なんて危なくて乗ってられないよー。後ろはバックミラーで見ればわかるんだから。田植え機だって一緒だよ。

四隅の植え始め

植え付け部がアゼに乗り上げるくらいまでバックで寄せて、まっすぐ下ろす

そこからゆっくり植え始めれば、アゼ際までしっかり植えられる

第四条　四隅は丁寧に

▼隣接植えと周回植えの時間配分は四対六

耕耘・代かきもそうだったけど、作業がうまいかヘタかは田んぼの四隅を見ればわかる。四隅がうまく仕上げられれば、植え残しもだいぶ減るのよ。

田植えで一枚の田んぼを仕上げるとき、隣接植えと周回植えの時間配分がどうなってるかってわかる？　だいたい四対六くらいなんだよねー。隣接植えのほうが植える面積は大きいけど、ダーッとスピード上げて植えられるから、かかる時間は少ない。でも周回植えは、四隅をちゃんと植えなきゃなんないから結構時間がかかるんだ。たとえ余計に時間かかっても、補植するよりはよっぽどいいでしょ。

▼植え付け部がアゼに乗り上げるくらいギリギリまで下がる

やり方はまぁ耕耘・代かきの四隅のやり方と同じなんだけど、まずバックで田植え機の植え付け部がアゼに乗り上げるくらいピッタリつける。で、そこで止まった状態で植え付け部を下ろしてから、ゆっ

出口も最後まで植える

くり植え付け始める。こうすれば四隅のアゼ際までしっかり植え付けられるってわけよ。

それから田んぼから出るときも大切。出口で適当に植え付け部を上げて脱出すると、ハイ、出口の手前にポッカリ植え残しのできあがり。出口の手前にきたらスピードを落として、傾斜を上り始めてもギリギリまで植え続ける。これで出口も手植えの必要なし！

出口を田植え機が上り始めても、ギリギリまで植え付け部は上げずに進む

もっと田植え名人になる　かきとり量を減らして経費削減

サトちゃんは「田植え機の設定次第で、経費を節約することだってできるよ」ともいう。簡単に経費を減らす方法は、苗のかきとり量を減らすこと。

サトちゃんの植え付け密度は、会津の低い気温を考慮して60株／反とそれほど少ないわけではない。でも、かきとり量は常に一番少ない設定にする。そのため反当たりに使う苗箱の数は、15枚とかなり少ない。経費もずいぶん安く上がるというわけだ。

「『かきとり量を減らすと欠株が出るのでは』と思う人も、ぜひ試しにやってみたらいいよ」とサトちゃん。サトちゃんは100g（乾燥モミ）のバラ播きなので比較的薄まきだが、ほとんど欠株は出ないという。

それでもあんまり欠株が出るようだったら、播種によっぽどムラがあるということ。次回の播種のやり方を考え直すきっかけにもなるというわけだ。

苗のかきとり量を調節する「横送り回数」調節レバー。数字は苗マットの横幅（28cm）を何回でかきとるかを示している。つまり数字が小さいほど一回にかきとる幅が大きく、そのぶん植え付け本数が多くなり、数字が大きいほど少なくなる。サトちゃんはかきとり量の一番少ない26に設定

半端が出そうな時は隣接植え最後に条数を減らして調整

いくら事前に田んぼと田植え機の幅を測っても、都合よく「○列植えればピッタリ」というわけにはいかない田んぼも多い。そんな場合はどうすればいいのだろう。

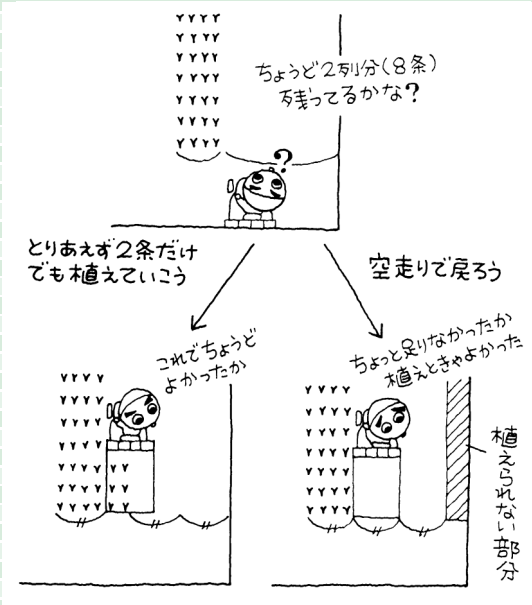
八条植えの大きな田植え機を使うサトちゃんは、最後の一列に入る前の列で半端な幅がどれくらいあるかを見て、二条、四条と条数を減らして植える。そして最後の一列に確実に一列以下の幅が残るように調整してやるのだ。

どれくらい半端が出るかは、田んぼと田植え機の幅を測った時点である程度予測できる。しかし確信が持てないときは、とにかく何条か植えてから周回植えに入ったほうがいい。

たとえば耕作くんのように周回植えを二列行なうコースどりで、隣接植えの最後に残った幅が「ちょうど二列くらいかな」と思ったとする。でもそこで空走りで戻ってしまうと、その幅が思ったより広かったときに修正がきかず、植え残しができてしまう。

しかし何条か植えてから周回植えに入ればそんなことはない。仮に残した幅が一列分より少なくなってしまったとしても、最後に条数を減らして植えれば植え残しはできないというわけ。

周回植えを2列する場合の幅の調整（4条植え田植え機の場合）



隣接植えの最後に残った幅がちょうど2列分に見えても、確信がなかったら、まず2条だけでも植えてから周回植えに入ったほうが確実

2条だけ植えて幅を調整。これで周回植えの1列分（8条）でピッタリ植えられる

もっと田植え名人になる

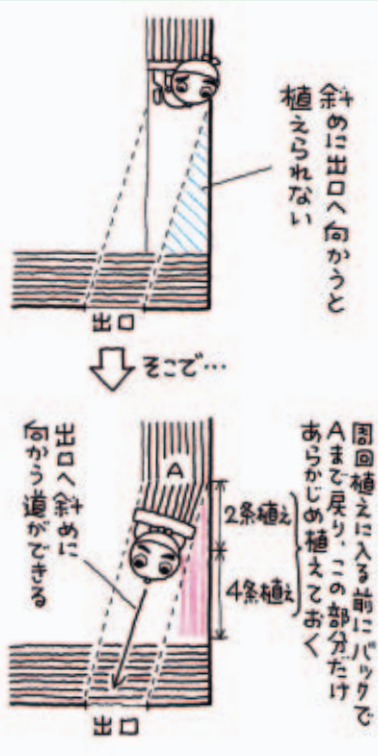
出口が隅にない場合の植え方

出口が隅ではなく枕地のちょっと内側についている田んぼも多いだろう。そんな田んぼでも、なるべく苗を踏みつけたり植え残しを出さないように植えるコツもある。

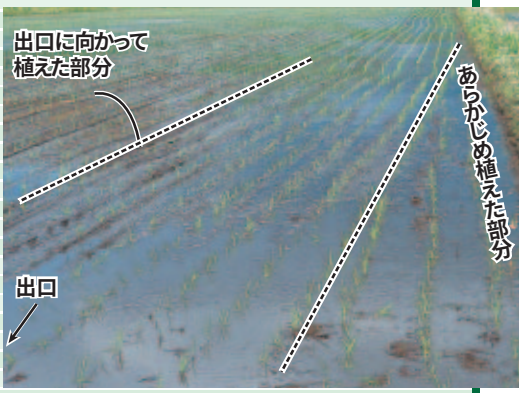
問題になるのは出口のすぐ脇の隅部分。周回植えの最後に斜めに出口へ向かうと、隅に三角形に植え残しができてしまう。かといってきっちり周回植えを最後まで行なうと、何回も切り返して苗を踏みつけながら出口に向かわなければいけなくなる。

そうならないよう、サトちゃんはあらかじめ出口へ斜めに向かう道を作ってしまう。

出口が隅にないときの脱出法



周回植えで戻ってきたときには、出口へ斜めに向かう道ができている



植え残しもなく、重ね植えになる部分も最小で植えきることができる